

ハイッ!!

校長 武井 正明

修学旅行の間、時折卒業生たちと行った、去年の修学旅行を思い出していた。自分がカチューシャを付けるなんて、いまだに信じられない。それほど楽しかった…。だから、卒業式の式辞を書く気が全く起こらなかった。

それが一昨日の三送会で、楽しそうにスライドを見ている皆を見て校長室に戻ったら、途端にいろんな思いが湧き上がって、20分足らずで一気に第1稿を書き上げていた。

そして昨日の朝。3年生全体としては最後の学年集会。

3学年部の先生方ひとりひとりから、卒業生に向けて、思い思いのメッセージが贈られた。旅立ち直前の何とも言えない、いい時間だった。



小野学年主任から、呼名の返事について「全く満足していません。嘘をつくのは嫌だから、このままだったら気持ちよく見送りに出られない」という話がありました。

君たちにはまだわからないだろう。子どもの返事が、どれほど親の心を揺さぶるか、を。

人間というものは幼くても、新たなステージに上がる意味を、きっと肌で感じるのだろう。保育園や小学校に上がる前の小さな子どもの多くは、喜びに満ちている。そして、新生活への期待が大きい分、不安も大きい。その不安は親も同じだ。

娘が、風の子保育園に入園を控えた春の日々は、忘れない。

夕飯を食べると「練習」が始まる。当時の風の子保育園は、じゃがいも、にんじん、かぼちゃと野菜で組が名付けられていた。今もそうだと聞いて嬉しい。

私が「風の子保育園、新じゃがとして入荷された新しいおともだちを紹介します。…じゃがいも組…たけい…もえこさん!!」娘はすくっと立って右手を真っ直ぐ上げて「ハイッ!!」「素晴らしいですねえ。さすが萌子さんです!!」本人は得意満面。これが可愛かった。

これを繰り返す。娘も飽きずに何度も繰り返す。きっと私たち親は、希望に溢れるひとり娘の姿を見て、未来への心配や不安を打ち消したかったのかもしれない。

卒業生の皆さん。誰のために返事をするのか。それは、あなたを一番応援してくれた人のためです。君のその姿に、幼き日の面影を思い出して、涙する人がきっといるはずだ。

その声を、大切なその人に届けてから旅立とうじゃないか。